

1945年の夏を語りつくす会

代表者／白髭守也 所在地／岡山市北区西島田町

お問い合わせ先／TEL 090-6436-9820（川上）

設立年／1989年 メンバー／12人

朗読劇「アンネ・フランクを知っていますかーミーブ・ヒースが伝えてくれたこと」公演の開催

目的

被爆体験・戦争体験を朗読劇、構成劇で語りついできて約20年。昨年3月の天災・人災で失われた多くの命に祈りをささげる日々が続いているが、一方で、人間が起こした、現在も起こし続けている戦争という争いは、地球上からなくなったことがない。

終戦後67年となる本年は、第2次世界大戦下のオランダ、アムステルダムで、ユダヤ人として厳酷な状況におかれながら、みずみずしい感性と深い洞察力を持って15年の生涯を生きたアンネ・フランクにスポットをあて、どのような状況下でも精いっぱい真摯に生きること、命、愛、平和がどれほど尊いものかを伝えたい。

経過

これまでは主に日本人の戦争体験を伝えてきたが、今回は世界にも目を向けようと、アンネ・フランクに焦点を絞った。「アンネの日記」の舞台化に苦慮していた中、メンバーから、ミーブ・ヒース著「思い出のアンネ・フランク」を紹介された。ミーブは、アンネの父の会社で働いていた女性で、4歳のアンネに初めて会ってから一家と親しく交流し、自らの危険を冒してフランク一家の隠れ家生活を支えた。思春期のアンネのよき理解者であり、フランク一家が逮捕連行後、隠れ家で「アンネの日記」を見つけ、保管、戦後、ただ一人生き残ったフランク氏に手渡し、2010年に100歳で亡くなった。この著作で、当時のヨーロッパ情勢、ユダヤ人の過酷な状況、アンネ一家の人間性、特にアンネの感性、利発さ、洞察力、どれだけ真摯に命を見つめ平和を願っていたか、を知ることができ、ミーブ・ヒースの深い愛情と勇気ある生き方が、命の尊さ・平和へのメッセージそのものと、この本をベースに、当時の世界情勢や劇も織り込んで脚本を作成。アンネのバラが咲く福山のホロコースト記念館研修も、アンネへの理解をより深めることができた。

スライド、音楽、照明は、この作品を表現する渾身のものに。ニューヨークの著作権所有会社との交渉では、上演権に関して手間取ったものの、設定されていなかったという奇跡もあった。

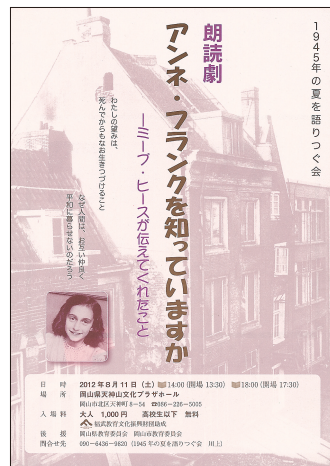


福山ホロコースト記念館研修
アンネ像とアンネのバラの前で

成果

8月11日（土）、天神山文化プラザホールにおいて朗読劇「アンネ・フランクを知っていますかーミーブ・ヒースが伝えてくれたこと」公演。入場者150名。

アンネ・フランクを知らない方が多くなった今、アンネと一家を支えた女性の存在をぜひ多くの方に伝えたくて、全中学校、高等学校に案内を出したが、反応は皆無に近かった。それでも、会場に足を運んでくれた小学生は、「アンネのことがよくわかり、よかった」、高校生は「感動した」「朗読にこんなに引き込まれるとは自分でもびっくり」と感想を寄せてくれた。また、「言葉の一つ一つが響いて、自分の中に絵を描くことができた」「朗読と劇とがうまく調和」「平和の素晴らしさを身にしみて感じた、感動した」「音響、音楽、照明がよかった」「ミーブってすごい」「余計な演技などせずとも心を打つ表現ができるのですね」「自殺者の多い日本、どうしたらアンネのように前向きに生きられるのか」「一人一人の心を込めた朗読に圧倒され、感動した」「戦争の恐ろしさ、現在の生活のありがたさをもっともっと若者に伝えたい」「今日のような公演を若者に見てほしい」等の感想から、目的はクリアできたが、来場した高校生たちが、こういう舞台の存在をどこまで広めてくれるか成果に期待したい。



チラシ



「私の望みは、死んでからもなお生きつづけること！」（アンネ）

今後の課題と問題点

観客だけでなく、会も、若手につないでいく必要を感じている。メンバー募集！TV、ラジオ、新聞、タウン紙等に登場しても広報効果がない。どうしたら会場に来ていただけるのか、変わらず一番の課題。